

◆巻頭言◆

新たな施設とともに、これからの環境のために

愛知県環境調査センター所長 柘植孝之



全国環境研協議会東海・近畿・北陸支部支部長を務めております、愛知県環境調査センターの柘植です。

日頃から共同研究や研究発表会などにおいて、皆様の多大なるご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、本環境調査センターは、愛知県の環境行政を支える調査・研究機関として、昭和47年に建設されました。しかし、老朽化のため建替えを行い、この度、新たに再生エネルギー活用施設や環境学習施設を併設するなどして、2020年4月に、フルオープンとなりました。

新施設の整備にあたり、次の三つの基本方針を定め、事業を進めました。

【基本方針】

- ・愛知県の環境行政における拠点施設
- ・全国モデルとなる新エネ・省エネ施設
- ・県民に親しみを持ってもらえる施設

従来からある環境や公害の調査分析施設に加え、新施設の1階には、県の環境学習の拠点である「あいち環境学習プラザ」や、県の気候変動影響への適応策の促進拠点である「愛知県気候変動適応センター」を設置しています。

また、新施設は、公共施設で全国トップクラスの省エネルギー施設を目指しており、建築物省エネルギー性能表示制度に基づきZEB(Nearly ZEB)の認証を2018年11月に受けることができました。ここでは、太陽光発電システム、太陽熱集熱システムなどの再生可能エネルギーを利用できるシステムを取り入れるとともに、高効率冷暖房設備、LED照明、人検知センサーによる照明制御、ビルエネルギー管理システムなどの省エネルギー施設を有しており、建築面においても高断熱ガラス、自然換気、地中熱利用、壁面緑化等を採用し、高い省エネルギー率を実現しています。

また、こうした新エネ・省エネ技術等の普及拡大を促進するため、新エネ・省エネ設備や建築技術の見学ルートを設定しています。併せて、小中学生が環境問題について学習する展示や講座、実験を行うことができる施設にしています。さらに、県産木材やリサイクル材を積極的に利用するなど、地球環境にも配慮しています。

当センターは発足当初は、大気汚染や水質汚濁などの公害調査、環境調査が主でしたが、アスベスト、フロン類、ダイオキシン類、PM2.5、環境放射能といった新たな課題の分析業務に対応してまいりました。

近年は、自然環境保全や地球温暖化対策、次世代の持続可能な社会の担い手の育成といった課題への対応も求められております。

今後も、新たな課題も含めた多岐にわたる課題に対応するために、幅広い分野、より広範囲での対応が必要になってくると思われれます。これまで以上に各地区の地環研の協力が必要になってくるのではないのでしょうか。支部活動や全環研の活動を通じて、皆様と協力して、これらの課題に取り組んでいきたいと存じます。今後ともよろしく願いいたします。



愛知県環境調査センター外観図
(建物南側前面に太陽光パネルを設置)

